

新型コロナウイルス感染症の検査体制

当院では令和2年3月より新型コロナウイルスに対応した発熱外来を設置し、院内で検査を行ってきました。今回は、当院でこれまで実施してきた体制について話します。

当院で行っている検査は、PCR検査・抗原定性検査・抗原定量検査の3つです。

PCR検査は、高感度に病原体を検出できます。また、変異株の解析や複数の病原体を同時に検出できる測定機器もあり、検査法の中心的役割を担っています。当院では、2種類の検査機器で1日平均20～30件のPCR検査を実施しています。

抗原検査には、簡易キットを使用して約10分で結果が得られる抗原定性検査と、大型機器を使用して約30分で検体に含まれる新型コロナウイルスの抗原量を測定できる抗原定量検査があります。両者ともPCR検査に比べると精度が落ちますが、1日にたくさんの検査を実施することができます。当院でも抗原定性検査で1日平均50～60件、抗原定量検査で1日平均20～30件実施しています。抗原定性検査は、夜間・休日の緊急手術の際など、結果を早く知りたい状況で活躍しています。抗原定量検査は、今年1月より当院に新しく導入した検査法です。検査精度が簡易なPCR検査に匹敵すると言われ、1時間に最大200件まで検査を行うことができます。導入して間もないこともあり、検査件数はまだまだ少ないですが、徐々に検査対象を増やしていく予定です。

新型コロナウイルス感染症は、変異のスピードが早く、新しい変異株が出現する度に感染者数が急増するといった波を繰り返しています。5月8日から感染症法の位置づけが5類へと移行されますが、今後も周期的な感染者数の増減が予想されます。当院は、さまざまな検査法を活用し、検査体制の強化に努めます。

臨床技術科 細菌検査室 藤江 拓也